

平成20年度ノリ養殖概況

誌名	岡山県水産試験場報告 = Bulletin of the Fisheries Experiment Station, Okayama Prefecture
ISSN	09129219
著者名	草加, 耕司 清水, 泰子 弘奥, 正憲
発行元	岡山県水産試験場
巻/号	24号
掲載ページ	p. 138-140
発行年月	2009年11月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



平成20年度ノリ養殖概況

草加耕司・清水泰子・弘奥正憲*

Nori *Porphyra* spp. Culture in Okayama Prefecture during the 2008 Season

Koji KUSAKA, Yasuko SHIMIZU and Masanori HIROOKU

キーワード：ノリ養殖，平成20年度

養殖環境 岡山地方気象台が観測した2008年10月から'09年3月までのノリ養殖期間中の旬別平均気温の推移と'08年4月から'09年3月までの降水量の推移を図1, 2に示した。

平均気温は，11月上旬から1月中旬まではほぼ平常並みであったが，それ以外の時期は若干高めで推移した。

降水量は，4月から5月には平常より多かったが，ノリ漁期前の6月から9月に少なく，特に梅雨期の6月から7月は平常の半分量以下であった。ノリ漁期中は2月が平常の2倍以上だった他は，10月から3月まで平常よりやや少なめで推移した。

岡山県水産試験場の地先海面に設置した水温自動観測装置によるノリ生産期間中の水深2m層における日平均の水温経過¹⁾は，漁期当初の10月下旬から11月中旬までは平常より0.5~1℃高め，その後12月中旬まで平常並み，以降は1~2℃高めで推移した。11月中旬と12月中旬の下降期に横ばい状態が続いた。

岡山県水産試験場が実施した浅海定線調査及びノリ栄養塩調査における溶存態無機窒素²⁾（以下，栄養塩とす

る）は，夏以降の少雨の影響からか，漁期を通じて平常値の半分以下で推移した。12月下旬以降は *Eucampia* 属の植物プランクトンの増殖もあり，全域でノリの色落ち限界とされる $3 \mu\text{g} \cdot \text{at}/\text{l}$ を下回る低栄養状態が続いた。

採苗及び育苗 県内の室内採苗は，平常並みに開始され，天候にも恵まれ順調に経過し，10月下旬には終了した。

育苗は24℃以下の海水温を目安とし，早い地区でも平常より5日程度遅い10月13日からの開始となった。県下全域では，10月15~20日頃をピークに10月25日頃にはノリ網の張り込みを完了した。今年度は水温動向を考慮した育苗開始の徹底により，高水温によるノリ芽の障害や，河川水の出水による芽落ち被害等は報告されなかった。育苗当初，数mmの肉眼視サイズまでは干出不足で網の汚れが目立ったが，ポンプ洗いで対処し，以後は順調に経過した。

冷凍入庫は11月4日頃から開始，単張りは19℃台となった11月10日頃から本格化した。

秋芽網生産（年内生産） 生産の開始は，早い地区で11

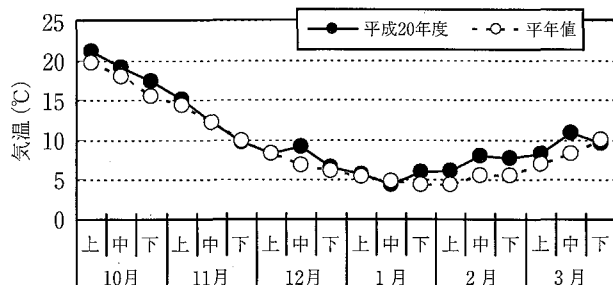


図1 平成19年度漁期の旬別平均気温の推移 (岡山地方気象台)

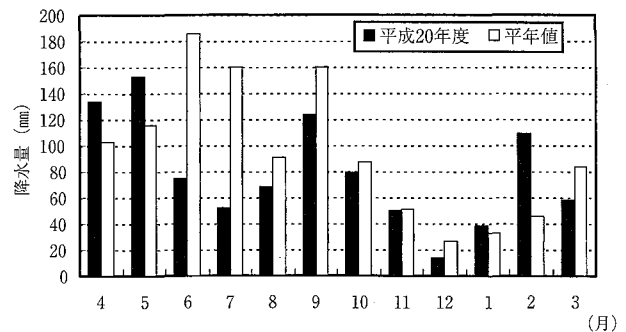


図2 降水量の推移 (岡山地方気象台)

*岡山県農林水産部水産課

月17日から、全県的には11月下旬からとなった。初回から2回摘採の製品は小穴が例年以上に多かったが、3回目以降は葉体の伸長も良好で艶のある良質の製品が量産された。また、高塩分の漁場環境の影響か、あかぐされ病等の病害も皆無であった。

しかし、漁期当初から栄養塩が低かった笠岡地区では、生産を開始した直後の11月下旬以降、色落ち被害が激しく、島嶼部の漁場から生産の休止を余儀なくされ、年内にはほぼ地区全体で終漁した。

例年、秋芽網の一斉撤去を実施し、二期作を行っていた犬島周辺漁場では、栄養塩の低い状態が続いていることやあかぐされ病の被害が軽微なことから撤去を行わない生産者が多く、昨年に続き各漁協・各生産者の自主的な判断による網の張り替えとなった。全県的にも同様の理由で、近年一期作化が進行し、二期作を行う地区は河口域に漁場をもつ一部の地区に限定されつつある。これらの動向を示す、養殖柵当たりの育苗網数（採苗ノリ網数/養殖柵数）は1.24と減少傾向にある。

冷凍網生産（年明け生産） 12月中旬から低栄養状態にあった日生、児島、下津井地区の一部では色落ちが進行し、1月中旬には河口から離れた漁場で生産を断念し、網揚げが順次開始された。一方、主力の犬島及び水島周辺漁場では、色落ち限界の2～3 $\mu\text{g}\cdot\text{at}/\text{l}$ の低栄養の環境下、潮回りによる若干の色落ちや、降雨による色戻りを繰り返しながらも販売可能な色調を維持した。その後、1月下旬以降は周期的な降雨による栄養塩の増加で色調

は回復したが、犬島周辺漁場では付着珪藻 *Tabularia* spp.の着生により品質が悪化した。また、2月下旬にはまとまった降雨による出水で河口の葉体が劣化し、あかぐされ病や壺状菌病の罹病もあって網揚げされた漁場もあった。ただ犬島及び水島周辺漁場では、概ね漁期いっぱい3月下旬まで生産が続けられた。

生産結果 平成20年度の生産結果を表1に示した。前述したとおり、主力の犬島及び水島周辺漁場は比較的良好な生産状況であったが、河川水の影響を受けにくい日生、笠岡地区等では栄養塩減少による色落ちのため早期終漁を余儀なくされるなど、明暗を分けた。この結果、秋芽網生産（年内生産）と冷凍網生産（年明け生産）の生産枚数は、過去3年比でそれぞれ138%と110%、年度総計で114%の約2.5億枚であった。ただ、下物相場が高値で推移したことから、平均単価は7.42円と前年の1.21円高となり、生産金額は年度総計で過去3年比120%の約18.5億円と平成17年度とほぼ同額にまで持ち直した。

漁協別の養殖規模及び生産量は表2のとおりであった。

文 献

- 1) 岩本俊樹, 高木秀蔵, 飯野浩太郎, 2009: 平成20年度自動観測装置による水温と塩分の推移, 岡山水試報, 24, 75-76.
- 2) 岩本俊樹, 高木秀蔵, 飯野浩太郎, 2009: 平成20年度岡山県下のノリ養殖場における溶存態無機窒素の分布, 岡山水試報, 24, 78-82.

表1 平成20年度生産結果

区 分	生産枚数			生産金額			単 価	
	枚数 (百万枚)	前年度比 (%)	過去3年比 (%)	金額 (百万円)	前年度比 (%)	過去3年比 (%)	平均単価 (円)	前年差 (円)
秋芽網生産	46	140	138	430	170	133	9.31	+1.62
冷凍網生産	202	135	110	1,410	160	117	6.98	+1.1
年 度 計	248	136	114	1,840	163	120	7.42	+1.21

注) 秋芽網生産は第2回共販までの累計, 冷凍網生産は第3回から最終第8回共販までの累計とした。

表2 平成20年度漁協別ノリ養殖施設数及び生産量

漁業協同 組合名	経営体数	着業世帯数	柵 数 (柵)	採苗網枚数 (枚)	生 産 量 (千枚)
日 生 町	2	4	1,080	1,210	2,682
牛 窓 町	10	15	4,595	4,645	26,019
朝 日	16	16	4,807	5,910	37,029
九 幡	7	7	1,640	2,480	14,770
小 串	14	14	2,738	5,220	28,425
鉾 立	3	3	628	940	5,891
胸 上	29	34	6,424	9,020	72,710
児 島	1	2	480	600	1,581
第一田之浦吹上	1	1	240	300	1,227
本田之浦吹上	3	6	880	1,080	2,879
第一下津井	3	5	1,260	1,260	7,381
下 津 井	8	11	3,260	3,380	17,471
黒 崎	6	6	3,260	3,710	26,368
笠岡市大島	1	1	310	310	688
神島外支所	2	2	2,560	2,680	2,963
白石支所	1	4	1,268	1,376	
真鍋支所	1	1	200	200	
計	108	132	35,630	44,321	248,083
前年対比(%)	94	99	94	86	136